



# 問 「スクール・ニューディール」構想の取り組みは

## 答 各校整備事業の計画的推進

**問** 「スクール・ニューディール」構想の取り組みについて伺う。

**教育長** この構想は、本年4月、国の「経済危機対策」において、「21世紀の学校」にふさわしい教育環境の抜本的充実を図るべく、文部科学省が提唱したものである。

本構想は3つの柱により構成されており、1点目として学校耐震化の早期推進である。学校施設は児童生徒が一日の大半を過ごす場である。

また非常災害時においては地域住民の応急的避難場所としての役割も果たすうえから、その安全性の確保は極めて重要であることから、早急な実施に向けて国の予算措置が図られているものだが、本町においては、既に計画的な取り組みを進めてきているところである。

2点目は、学校のエコ化の推進である。今日、地球環境問題が緊急かつ重要な課題となっているが、学校においてもこの問題に対応すべく、自然との共生、環境負荷の低減、ある

いはエネルギー教育の活用の観点から、学校施設への積極的なエコ化の推進を図ろうとするものである。

今回、文部科学省は学校への太陽光発電の導入拡大を最重要課題の一つとして強力に推進することとしている。

また、二重サッシや断熱ガラス、断熱材、節水型トイレ、省エネ機器の導入等による省エネ改修、あるいは校庭の芝生化等改修のための補正予算が確保されている。

太陽光発電については、本



大溝小学校校舎屋上の太陽光システム

町では、既に6年前から各小學校に計画的に太陽光発電を設置し、いち早く環境のまちづくりに取り組んでいる。

3点目は、学校のICT化の推進である。未来を担う子どもたちへの情報教育の充実は喫緊の課題として、わかりやすい授業により児童生徒の学力向上を目指している。

今回、整備が遅れているテレビのデジタル化と教育用コンピュータ及び校務用コンピュータの整備、そして校内LANの整備等が取り上げら

れており、具体的な数値目標としては教育用コンピュータが3.6人に1台、校務用コンピュータは教職員1人1台の整備目標が掲げられている。

また、デジタルテレビへの買替えとともに、電子黒板の導入を推進すべく各学校に1台の整備を図るための予算が確保されている。

この電子黒板は、書き込みやタッチパネルによる操作が簡単にでき、映像を活用することによってよりわかりやすい授業を実現できるものであり、本年3月に小学校の補助教材として配布されている「英語ノート」のデジタル教材など、今後こうした教材がさらに普及していくものと思われ、これらを活用する際にも大いに役立つものと思っている。

いずれにしても、この構想に盛り込まれた整備メニューは、将来の学校施設に必要であり、早期に取り組むべきものとして認識はしているが、予算との関連もあるので十分検討をしながら取り組んでいきたい。